

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型として、スタッフ一同で考え、作りあげたものがある。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>地域密着型を意識し、実践している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族には、理念については周知していない。</p>		<p>今後、家族会などで理解を深めていただく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>ゴミ投げや散歩の時に、挨拶をしたり、されたりしている。グループホームの行事などの、参加の声をかけている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>盆踊りや川の清掃などに、スタッフと利用者が参加している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>			<p>介護相談の窓口になったり、公開日を設けてホームの中をオープンにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	過去の評価を生かして、出来ることからしている。例えば、記録に記載者のサインを残している。食事中、スタッフがバタバタしないようにしている。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	生かしている。他の介護事業所の方からのアドバイスをもらったり、地域包括センターの職員から、他のグループホームの情報をいただいている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	定期的に役所に空き情報を報告し、運営推進会議を行ったり、グループホーム協議会に入会し、包括との連携、働きかけを行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	話し合いはしているが、具体的に活用していない。		スタッフ研修などで、更に理解を深め実践していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し学んでいる。防止にはつとめている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項の説明や入居前の面談など行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議には、必ず利用者代表に出席してもらっている。職員も話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	随時、家族には電話による連絡や、月に一度、家族通信を送付するようにしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議には、必ず家族の代表に出席してもらい、意見、情報の交換をしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に数回の懇親会を通してや、スタッフ研修のみに意見の交換をしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や入浴日など必要に応じて、日勤者の数を調整している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今までに異動などは行ったことはなく、同じ顔ぶれで接することに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の参加を促したり、内部研修も年に数回計画し行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修などを通して、積極的にネットワーク作りを行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	年に数回の懇親会を設けたり、休憩室内の過ごし安い環境に気を配っている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	研修の参加を促したり、仕事上における悩みなどは随時聞くようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前には必ず、本人との面談を行い不安や希望を聞くようにしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前には必ず、本人との面談とは別に家族との面談、話し合いをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容に応じて、医療的な対応、マッサージや福祉用具の紹介などしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居後は出来る限り家族の訪問を依頼し、状況をみながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	季節毎に外出の機会をもったり、出来ることを中心にお手伝いをお願いしたり、昔話を通して関係を築いている。学ぶことも多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	何かあればその都度、家族に近況を知らせ情報交換し、一緒に考えるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の生育歴を聞いたりする上で、家族との関係を聞きパイプ役のように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの友人の訪問を受け入れたり、外で声を掛けられたりしたときは仲を取り持つように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	体操、レクには全員に声かけし、参加をうながしている。出来る人同士にお手伝いをお願いしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族会の懇親会などには、退所した家族にも参加の声かけをし、入院治療中の利用者がいれば、面会にいつている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段からコミュニケーションを取り、話をよく聞くように努めている。話づらそうな時は一対一で聞くようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の本人の面接も行い、フェイスシートや家族からの情報で生育歴など把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケアプランに合わせ、個別または集団で実践するものはして、有意義な時間を過せるようにつとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	個人個人に合った計画を立て、スタッフのアイデアを取り入れ対応している。時には、訪問診療の医師などにも意見を求めたりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々、ケアプランに合わせ実施しているが、時のより現状とそぐわない場合には、次のカンファレンスまで待たず、臨機応変に支援内容を工夫している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は個人記録と業務日誌とに分け、時系列に「一日の流れ」を記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所の所持する車を活用し、利用者の要望に即した支援をおこなっている。ドライブや書店、大型スーパーへのショッピングなど。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議へは、民生委員に参加してもらったり、町内の小学校の学習発表会を見学させてもらったりしている。防災訓練時には、消防署の協力をあおいだりしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望に応じて、福祉用具のレンタルやマッサージの依頼をしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターには、必要に応じて情報交換をしたり、働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人希望の医師がいれば受診してもらい、二週間に一度、訪問診療をしてもらい、必要に応じて家族との連携により、専門医の受診も可能の体制にある。</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>以前よりかかりつけの脳外科の医師や、訪問診療の医師の紹介により専門的な知識や相談が出来る体制にある。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>常勤の看護職員がいるので、日常的に相談出来る体制にあり、状況に即した対応が出きる。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院した場合には、家族、本人の思いを尊重し、早期退院に向けた話合いが行われている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>本人、家族の思いを尊重し、かかりつけの医師と連携を保ちながら、話し合い、職員一同思いを一つにし方針を決定している。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期の方針に基づいて、職員一同、チームケアとして支援に取り組んでいる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>介護添書や薬情報など提出し、フェイスシートなども情報として交換している。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報には外に漏れないように努めている。トイレ誘導など周りに気づかれないよう、プライバシーに気を使っている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>目の見えない利用者には、食事メニューの説明をし、食べたい物を指定してもらったり、外出、行事の説明も言葉を選びわかりやすく、行動に結びつけられるようにしている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>出来る限りそうしている。が、傾眠がちの多い時には、散歩、体操を促す事もある。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問美容にきてもらい、本人の希望に合わせてパーマやカットを行っている。着替えの時などは、本人に選んでもらうようにしている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>誕生日などにその人の好みの物を用意したり、行事に合わせた食事を提供している。皮むき、盛り付けなど本人の出来ることを無理のないように行ってもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	クリスマス会などの時、ノンアルコールビールをたしなんでもらったり、みんなで食べるおやつのほか、本人の好みの物を用意している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間ごとに声かけしたり、排泄の様子が伺える時は、トイレに案内するなどして失敗のなく衛生保持を心かけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日まで希望通りには出来ないが、一番風呂が好きな方、ゆっくりと終い風呂が好きな方に合わせ対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中は出来るだけ楽しみごとや、外出、掃除、食事作りなど活動的な生活を送り安眠出来るよう支援している。眠れない時には、寄り添い話を聞き、温かい飲み物を提供する。添い寝など個々の状況に合わせて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や職歴を生かして、日々の気晴らしをしてもらったり、好きな事、出来る事に取り組んでもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望に応じて、日用品を本人の所持金から出してもらったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日に、ウインドウショッピングや、遠足、足湯など、色々なところに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	事業所の所持する車を活用し、花見、果物狩り、バイクなどに出かけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	年賀状を書いてもらったり、遠方の家族からの電話を取り次いだり、送り物のお礼の電話をかける支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問した家族と皆さんのいる食堂で過ごしてもらったり、個人的に居室でゆっくり談話してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	車いすでは縛りつけなど行わない、就寝時も出来るだけベッド柵で囲まないようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄關に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	家庭の概念を大事にして、夜間のみ施錠している。日中は、ドアに開くとインターホンがなり、察知できるようになっている。外出を察知した時は、一緒に散歩したり、さり気なく声かけをして、自由な暮らしを支えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	出来る限り、自由に過ごしてもらえよう、監視しているような感じにならないようさり気なく見守って、安全確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	仏壇に線香を供える習慣の利用者には、火はスタッフが管理し、本来の生活習慣をくずさない工夫をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒、窒息、薬に関しては、スタッフ間で勉強会を開き、知識を共有し、一人ひとりの状況に応じた対応をしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	日ごろより、緊急対応マニュアルを備え、職員全員が対応出来るように努めており、勉強会で実地訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災や地震に備え、消防署の協力のもと、近所の住民にも声をかけ、年に二回訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒、痙攣など予測されるリスクについては、日ごろより家族と良く話しあい、リスクを避けられるよう対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の様子と違う時は、速やかに対応している。また、その情報を職員間で共有し、看護師に報告して指示をあおいている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報は薬局から添付されたものを、一冊のファイルにいつでも職員が見ることが出来るようにしてある。服薬する物の種類の変化、休薬、追加の時に応じて申し送りをしている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	便秘の原因、影響については、勉強会を通して知識を深め、個々の状況に応じて水分や食物繊維の摂取を心かけ、運動する事も促している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の水分補給、歯磨き、義歯の洗浄を行い、出来ない部分を支援しながら口腔内の清潔保持に努めている。研修会を開催あい、口腔ケアの重要性を理解してケアに生かしている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	具体的なカロリー計算はしていないが、職員は利用者の全体的な水分量や体重の増減、摂取状況を把握した中でバランスの良い献立作りをしている。	一年に何度か、地域の栄養士などに専門的な観点から、カロリーや塩分について助言を受ける。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルは用意されている。職員、利用者共にインフルエンザのワクチンを接種している。ノロウイルスと思われる症状が発生したが、速やかに対応したため大事に至らなかった。また、うがい手洗いは日常的に習慣となっている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理器具は清潔に保たれている。布きんなどのこまめな漂白、週に一度冷蔵庫の整理、掃除など行っている。食品の賞味期限についてもきびしいチェックを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		
(1) 居心地のよい環境づくり		
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>日中は玄関の施錠はしないで自由に出入りできるようにしてある。夏場は庭にベンチ、花のプランターなどを置き、気軽に親しみ安い雰囲気作りを心がけている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>玄関、食堂には季節の花を飾ったり、浴室、トイレなどは自然の彩光で季節、時間が感じられるようにしている。清潔保持にも心がけている。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>外の景色が見られる談話室がある他、一階のユニットに遊びに行ったりなどの工夫をしている。</p>	
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>馴染みの家具や家族の写真を飾ったりしてもらっている。希望に応じてテレビを持ち込んでもらったり、居心地の良い空間にってもらっている。</p>	
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>室内の温度、湿度には十分配慮している。特に夏場の暑さ対策は、クーラーをうまく使って温度調整をしている。</p>	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり		
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>もう少し、くつろげる空間があると良いと思う。洗面所の水道の蛇口が邪魔な気がする。</p>	<p>スペース的に広げる事はむずかしいので、レクなどで気分転換を図ったりする。蛇口については代表に伝える。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレには場所がわかるように、大きく明記し、各居室には利用者の写真や名前を張り出し、混乱のないよう工夫してある。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物のすぐ裏に畑を作り、季節の花や野菜の収穫を楽しむ事が出来る。また、夏場は建物の横で焼肉や流しソーメンをして、利用者、スタッフが近所と交流を深めたりしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

事業所として、研修会、勉強会の参加を励行し、働き安い職場環境を常に意識しています。また、季節ごとに、家族を含めた行事、外出の機会が多く、利用者本位に支援しています。